

事業所における自己評価総括表

公表			
○事業所名	ドリーム手稲（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 15日	～	令和 7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)
			25名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 15日	～	令和 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)
			8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を提供している。	保護者からお聞きしたご要望や、お子さんの発達に応じた支援を行っている。お子さんに必要な課題を集団、個別と組み合わせ実施している。保護者からの要望やお子さんの状況に応じて専門的療育も実施している。	アセスメントを行い強みや弱みを把握し、お子さんの発達に応じて必要な専門的支援を実施していく。
2	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援を行っている。	支援計画は職員間で共有し、ミーティングなどで活動内容を検討したり、送りや振り返りで、統一した関わりができるよう取り組んでいる。	支援計画に沿った活動内容を職員間で検討し、日々の話し合いの中で統一した関わりができるよう取り組んでいく。
3	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができている。	日々のお子様の様子については、連絡ノートや電話、面談等で保護者とやり取りをしている。その他、お子様の変化や保護者様の悩み不安等がある時には、都度直接お話を聞かせていただき、対応方法について情報交換を行っている。	保護者の思いに十分に寄り添いながら、お子さんの発達において共通理解を図っていく。変化等がみられたときにもお子さんの様子について情報交換を行い、共有できるように努めていく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	戸外活動などで、地域のお子様と同じ空間で過ごす機会はあったがそれほど多く機会を設けることはできなかった。現在のおこさんの年齢や特性を考慮し交流することが難しかった	戸外活動時には地域のお子さんに関わる機会を設けていき、お子さんの発達に応じて、保育園や幼稚園との交流する機会も検討する。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	町内会の活動へ参加し、地域住民の方と関わる機会があったが、地域へ当事業所が発信したり、招くなどの機会を設けることはできなかった。	今後も地域の活動に参加をし、地域の方々との関わりを作っていく。また、地域への発信としてできる内容を検討する。
3	保護者交流会やきょうだい同士の交流等の家族支援	茶話会や就学相談会を開催し、保護者様の交流の場を設けることができた。お仕事をされている保護者の方も多く、参加が難しい保護者の方も多くいた。兄弟同士の関わりは、茶話会時に交流する機会をもつにとどまっている。	就学相談会は今後も開催し、情報の提供の場面を作っていく。また、保護者対象の茶話会を複数回実施するなど、より多くの保護者の方の参加に繋がるよう、開催方法を検討する。